

優秀賞 「新しい八幡浜」

保内中学校三学年 山本 芹菜さん
せのな

三十年後の八幡浜が、今よりももっと便利になっていたらいいと思う。だからこそ、将来、故郷を支える私達から、新しい地域の姿を考えるべきではないだろうか。

私は新しい八幡浜を、だれもが楽しく暮らせる優しい町にしたらいいと思う。例えば、危ない場所や道などの見直しだ。地域の人から危険箇所を聞いたり調べたりして、すぐに整備したり、マップ化したらして、安全に暮らせる町にしたい。

また、病院の改善も必要だと思う。昔と比べて、八幡浜の医師の数は減り、患者数も減ってきていると聞く。もしものとき、「すぐ駆けつけられる病院を増やせば、住む人も安心して過ごせると思う。また、リハビリセンターや全国の人が駆けつけられるような医療センターを作ったら、もっと多くの人々が地元で治療に専念できるのではないか。地域の人自分の町で、病气やけがを治せる町づくり。全国に誇れる病院施設の設置。これからはお年寄りの方が増えていくからこそ、きちんとしていくべきではないだろうか。

もう一つ提案したいのは子ども達が楽し

く暮らせる町づくりだ。今の八幡浜は子ども達がのびのびと遊べる場所が少ないように感じる。もっと、公園や室内でも楽しめる空間を作ってほしいと思う。また子どもも楽しく、親も安心できるような場所や子どもからお年寄りまで、楽しめる空間を作ってほしい。そのために、まずはコミュニケーション広場を作ったらいと思う。住宅の間、川沿いなどに、中庭のような広場を作る。誰もが出入り自由で、ベンチで会話をしてもいいし、バーベキューを楽しむのもいい。大切なのは、みんなが気軽に交流できるということだ。孤独に悲しむ人をなくし、人との輪や思いやりが広がるような場所にしたい。それこそが、心を豊かにし、人生を楽しめる故郷のあり方ではないだろうか。ときには生活の知恵を交換し友情を育み、ときには仕事や企画のアイデアにつながる出発点になるかもしれない。

場所が確保できない場合は、移動式の庭園や公園を作ればいいと思う。地域を順に回ったり、建物の上に設置したりすることで、新しい建物を作ったり、埋め立て地を作ったりしなくても、みんなが楽しめる場所は増やせると思う。

そのためにも、八幡浜をよりよい場所にしようという、地域全体の強い思いやパワーが必要だ。共に考え、共に歩いていく町。そんな八幡浜であってほしい。一人の力では、未

来の八幡浜を創ることはできない。地域住民一人一人の声や力を集約し、三十年後の新しい八幡浜を創っていききたい。

私は、お年寄りや子ども達が暮らしやすい町づくりから始めていきたい。それこそが、だれにでも優しく明るい町、新しい八幡浜ではないだろうか。



優秀賞 「三十年後の八幡浜」

愛吉中学校三学年 増池へるみさん

八幡浜のいいところはどこだろう。生まれだばかりの赤ん坊からお年寄りまで、みんなが元気で明るいうところ。海と緑に囲まれて、空気がきれいなところ。噛むとはじけるような甘さでいっぱいのみかんや、躍るように新鮮な市場の魚があるところ。考えるといくらでも思いつく。そんなすてきな町、八幡浜が私は大好きだ。

私には、他市に、釣りが好きな友達がいる。その友達はよくこの町に遊びに来て、釣りをしているらしい。そしてその度に、「やっぱり八幡浜はきれいだな。」と思うのだという。それを聞いて、私はとても嬉しかった。自分

の大好きな町を、他の人に認めてもらえると
いうのは、自分がほめられているような気持ち
になれる。

友達に住んでいる町は八幡浜より便利で、
私が知らないものがたくさんある。道路もき
れいに整備されているし、買い物場所につ
くこともない。遊ぶ場所もたくさんあって、
さぞかし楽しいだろうと思う。私自身、憧れ
ている町でもある。しかし、ある時、そのこ
とを友達に伝えると、「そっちは海も山もき
れいでうらやましいよ。」と言ってくれた。
そのとき私は、たとえ便利なものではなくても、
自然に恵まれているという、その幸せに気付
いたのだ。

確かに、都会への憧れがなくなったわけ
ではない。けれど、豊かな自然と一緒に生きて
いけることは、すばらしいことなのだと思う
ことができた。

「三十年後の八幡浜」。毎日学校の帰り道
に見ている愛宕山からの夕日が、三十年後も
変わらず美しく輝いているのか、などと考え
たこともなかった。なぜなら、それが当たり
前だと思っていたから。しかし、水面がきら
めく海や、オレンジに色づく山や、そこに住
む人々の笑顔。それは当たり前ではないのか
もしれない。

私が望む八幡浜の未来は、きつとみんなと
同じだ。それは、「住んでいるみんなが幸せ
と思える町」である。多少不便でも、それを

「幸せ」だと思える。そんな町であってくれ
たらいいなと思う。

私の理想は「今のまま」だ。映画館も遊園
地も、実はもうすでに生活の中に存在してい
る。日々の人間ドラマの中にいけば、映画と
同じような経験がたくさんできる。市場に行
けば、そこは水族館だし、おじいちゃんおば
あちゃんに学ぶ昔ながらの遊びは、とても新
鮮でわくわくする。今のままでも、十分毎日
が楽しい。

この先、生活を便利にするために、道路や
施設が新しく作られたり、自然が少なくなっ
たりすることがあるかもしれない。それでも、
三十年後も、人と人の触れ合いがたくさんあ
る八幡浜であってほしいと思う。そして、そ
の中で笑顔で暮らす私でありたい。

特別賞 「三十年後の八幡浜」

双岩中学校三学年 和家 由佳さん

甘くておいしいみかんや野菜たっぷりの
ちゃんぽん、鮮度抜群の魚。八幡浜には有名
なもの、誇れるものがたくさんあります。ど
れも好きなのですが、私は特にみかんが大好

きです。八幡浜では、季節に合わせて、いよ
かんや紅まどんな、「エ」ポンなど約二十種類
ものみかん栽培が行われています。そして、
それらのみかんを使って、お菓子やゼリーな
どさまざまな加工食品も作られています。

昨年の夏、私はみかんの生産や加工を行う
工場で職場体験を行いました。そこで、みか
んの収穫や商品の箱詰めなどを体験させて
いただきました。この体験を通して、仕事の
大変さを実感しました。でも、とてもやりが
いを感じたところもあり、商品を手にとった
人たちが喜んでる姿を想像すると、作業が
楽しくなりました。

私の家もみかん農家です。私は、休みの日
に収穫を手伝ったりします。家族みんなで作
業をしても、全部取るためにはかなりの時間
がかかります。また、取ったみかんを運ぶの
は、非常に重くて大変です。そして、みかん
の収穫だけでなく、それまでの世話にも手間
がかかります。以前、「草がすぐに伸びてく
るから、こまめに消毒しないといけないのが
大変だ。」と父が話していました。でも、そ
うやって手間ひまかけた分、おいしいみかん
ができるので、とても嬉しいそうです。私も自
分の家で作ったみかんを食べると、おいしく
て幸せな気持ちになります。

職場体験での経験や我が家のみかん作り
を手伝っていることから、私は将来、みかん
に携わる仕事に就きたいと思っています。そ

して、おいしい八幡浜のみかんを、もっとたくさんの人に知ってもらいたいです。そのためには、少しでも早く八幡浜のみかんを全国に直送することも大切です。そこで、三十年後の八幡浜にはそれを可能にするような高速道路の整備が必要だと考えます。

また、八幡浜には、人に優しいまちになってほしいです。八幡浜には高齢者の方が多いに住んでいます。ここで、日常生活のちょっとした部分に目を向けてみたいと思います。お年寄りの方や目の不自由な方にとっては、道端の小さな段差でも、つまづいたり、バランスをくずしてしまいそうになったりして危険です。そこで、まち全体をバリアフリー化するのはいかがでしょうか。小さな段差はなくし、階段があるところには必ずスロープを設けることで、みんなが生活しやすくなります。小さなことかもしれませんが、これらを少しずつ改善することで、より住みやすい場所になると思います。

段々畑に鮮やかなオレンジ色のみかんが輝くまち。そして、みんなが笑顔で生活できるまち。三十年後の八幡浜をそんな素敵なおまじにしたいです。



特別賞「私の夢」

八代中学校三学年 橋本はるかさん

私の将来の夢は二つあります。

一つは、両親の跡を継いで農家になることです。私の家はみかん農家です。私は小さい頃から両親の作ったおいしいみかんを幸せな気持ちで食べていました。また、我が家は家庭菜園もしています。家で作った野菜が食卓にのると家族の笑顔があふれます。だから、私は、食べた人が「おいしいー」と笑顔になれる果物や野菜を作る農家になりたいのです。

私が農家を継ぎたいと言ったとき、両親はうれしそうに私を見ていました。けれど、父は「苦労するぞ。」とも言いました。確かに暑い夏の灌水作業、とんどん重くなる袋を背負っての収穫、腰の痛くなるコンテナ運びなどはきつい作業です。けれど、農家には農家だけが味わえる喜びもあります。手間ひまかけたみかんが期待にこたえてくれて、甘くておいしい実がたくさん実ったときは本当にうれしいと父は言います。私も一緒に喜びたいです。

今の農業は後継者問題も深刻だと聞いたことがあります。我が家の山の近くにも後継者がいなくて荒地地になった山があります。こんなことが続くと、私たちのふるさと、八

幡浜の特産品であるみかんの生産量が減り、町がさびれてしまうのではないかと心配です。これも私が農家になろうと思う理由の一つです。

今年初め、私にとって大ニュースがありました。一昨年私が植えたりんごと梨の種から苗ができたのです。私が作った初めての苗です。植えた時は、スーパで買った果物の種なので、芽が出たらいいなというくらいの気持ちでしたが、実際に苗ができ、農家という夢の第一歩を踏み出したように感じました。

もう一つの夢は、品種改良をする農業技術者です。野菜や果物が嫌いな人でもおいしく食べられ、笑顔になるものを開発したいです。現在、みかんの人気回復に向けて様々な品種改良が開発されています。「紅まどんな」「甘平」などは、最も新しい高級品種です。これらは、甘くて皮がむきやすく、誰もが食べやすいように作られたものです。値段も高く、愛媛のブランドみかんです。けれど、現在のブランドみかんは病気に弱いのが欠点です。ハウス栽培でないとうまく育たなかったり、雨に当たっただけで浮き皮になり、売り物にならなくなったりします。私は、おいしさはそのままでも簡単に作れる品種や、全く新しい品種を開発したいです。私が作った品種には「こはる」という名前をつけて売ります。それらが農家の収入を増やし、生活の安定につながればうれしいです。そうなれ

ば、農業の後継者が増え、若い農業仲間も増えると思います。他府県から農作業の手伝いに来る人や、ブランドみかんを買いに来る人も増え、八幡浜の活性化にもつながると思います。

農家と農業技術者、どちらもやりがいがあります。いつか夢がはっきりしたとき、その夢に向かってまっすぐ進んでいきたいです。

特別賞「僕の夢」



八代中学校三学年 竹中 熙輝さん
ひろき

僕は将来、魚に関わる仕事に就きたいです。その中でも、漁師が板前になりたいと思っています。それは、八幡浜の名産品でもある魚が好きだからです。小さいころから、僕は祖父といつも海に行って船に乗り、魚を釣っていました。だから僕は、魚に関わる仕事である、漁師が板前になりたいのです。

十一月に職場体験に行きました。体験先を決める前から、「魚屋で働きたい。」と思っていたので、「シーや市場」の中にある「有田鮮魚店」へ行くこと決まったときには、本当に嬉しかったです。漁師の朝は早いと分かっていたのですが、五時半に集合と聞いたときは、

驚きました。僕は、早起きが苦手だったので職場体験の数日前から早起きをする練習をしました。

朝六時に始まる競りの見学をさせてもらいました。朝早いにもかかわらず、魚市場にはたくさんの方が集まり、活気がありました。仲買の人たちは、たくさん魚を目で見て、手で触って、よりよいものを選ぶうとしていました。自分のほしい魚を手に入れたときに有田さんの笑顔は輝いていました。お客さんにより魚を提供しようとするプロの姿を見ることができました。

競りから戻ると、買ってきた新鮮な魚をケースに並べ、開店の準備をしました。開店と同時に、魚を買いにたくさんのお客さんがやって来ました。最初僕は、恥ずかしくて小さな声しか出せませんでした。それを見ていたのか、お客さんの一人が「頑張ってるね。」と僕に声を掛けてくださいました。本当は僕が声を掛ける側なのに、小さな声しか出せない上に、声を掛けてもらうなんて……。これではだめだと思いました。思い切って、大きな声を出し「ありがとうございます。」と尝试してみました。そこからは、自然と声が出るようになりました。接客だけでなく、実際にアジやタチウオの三枚おろしをさせてもらいました。専用の細長く鋭い包丁を使いました。ぴかぴかに磨かれ、切れ味のよい包丁を使うのは、思った以上に難しく、手を切るの

ではないかと怖かったです。しかし、怖いという気持ちと同じくらい楽しいとも思いました。

職場体験の三日間を通して、自分を見つめ直すことができました。そして、これからの目標を持つこともできました。高校を卒業したら、水産関係の学校に進みたいです。そして、漁師になり、沿岸漁業を試みたいです。八幡浜には、トロール漁業という伝統的な漁法があります。この仕事もやってみたく思うものの一つです。

これからは、地元八幡浜の人とかかわりを大切にしていきたいと思っています。待っているのではなく、自分から積極的にかかわっていきます。この気持ちを忘れず、自分の夢に向かって努力していきます。

